

Accessシステム 超リフォーム術

ポイントを抑えて楽々リフォーム



第9回

データアクセスページによる Webへの展開①

T'sWare

星野 努 HOSHINO, Tsutomu

<http://homepage1.nifty.com/tsware/>

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
Access 2003

Level



Samples

はじめに

はじめはスタンドアロンで稼働していたデータベースシステムも、情報量の増加やシステムの重要度の高まりにつれて、「より多くの人が利用できるようにしたい」というニーズが出てくるものです。そのようなニーズを実現するにはLANによるMDBファイルの共有やSQL Serverへのアップサイジングなどが考えられますが、今や一般的となった「WWWの仕組みを利用する」こともひとつの重要な選択肢といえます。

Accessでは、そのようなニーズに対応して、バージョン2000より「データアクセスページ」という機能が追加されました。これを使うことによって、Accessに蓄積されたデータを簡単にインターネットやイントラネットに公開することができます。レコードの追加や更新など、インタラクティブな機能をWebページ上に作り込むことも可能です。

そこで、本連載では、2回に渡ってこのデータアクセスページについて取り上げたいと思います。

データアクセスページとは？

データアクセスページは、

データベースにアクセス可能なWebページ

を開発する機能といえます。Access 2000以降では、フォームやレポートとほぼ同様の感覚でWebページを作成することができます。Accessではこれを「ページ」というオブジェクトとして扱います。これを使えば、いわゆる“Webデータベースシステム”がAccessでも作れるのです。

HTML形式でのデータ公開はAccess 97以前でも可能でした。ただしそれは、ある時点のテーブルやクエリの内容を静的にHTMLに吐き出すことしかできませんでした。Webブラウザを使って、

リアルタイムにデータの表示や新規入力／編集などを行なうためには、(当時は) ASPなどを使ってまったく別の環境でのスクリプト開発が必要でした。MDBファイルのテーブルへも共有的にアクセスできたとはいえ、開発やメンテナンスには労力を要したものです。

一方、データアクセスページでは、そのような労力はほとんど必要ありません。データベースファイル内にあるテーブルやクエリを使って、簡単にデータベースと連動したWebページを作ることができます。すでにフォームやレポートの作成に慣れた方であれば、データアクセスページを作成する際にほとんど新たな知識は必要ないでしょう。

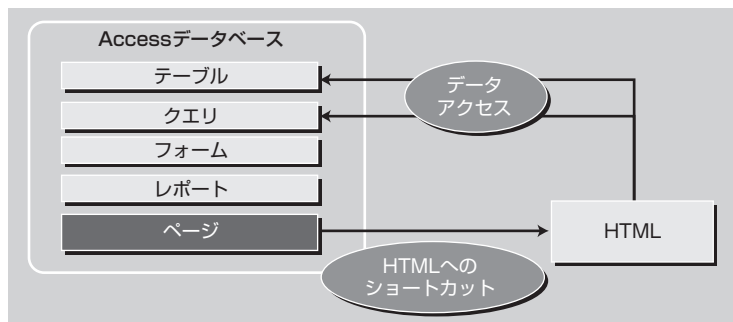
また、データアクセスページの大きな特徴として、

実際のページの内容は外部のHTMLファイルとして生成される

という点が挙げられます(図1)。これは、フォームやレポートとは異なる、次のような特徴を意味しています。

特徴1▶ 実体は外部のHTMLファイルであり、Accessはそのデザイナー(簡

図1：データアクセスページとHTMLファイルの関係



単に言うとうホームページ作成ソフト)としての役割を担う

特徴2▶ 一般のHTMLで可能な機能も組み入れることができる(JavaScript、VBScript、CSSなど)

特徴3▶ FrontPageなど、他のソフトでの編集も可能

特徴4▶ Internet Explorerがあれば、どこでも誰でもそのページを利用することができる

その一方で、Accessならではのデザイン機能もあり、一般のホームページ作成ソフトが持っていないデータバインディングの仕組みを簡単に利用することができます。

Officeならではの機能

データアクセスページは最終的には一般的なHTMLファイルとして保存されますが、デザイン時にはOfficeならではの機能を利用することができます。Excelなどと共有化されたコンポーネントを使うことによって、Webページに次のようなインターフェイスを実装することが可能です(図2)。

- ・スプレッドシート
- ・グラフ
- ・ピボットテーブル

特に、スプレッドシートやピボットテーブルについては、ただ画面表示を行なうだけではありません。実際にブラウザからデータを入力することによって、計算式に基づいて自動計算したり、並べ替えを行なったりといった、一般的なアプリケーションと同様の操作ができるのです。ピボットテーブルはAccessのデータベースと連動させることもできます。

制約事項

Access 2000以降の環境があれば誰でもこのデータアクセスページを作ることができますが、Webへの公開に関しては、ユーザー側の環境として次のような条件があります。

①Internet Explorer 5.0以上が必要

データアクセスページで作られるHTMLやそこで使われるコンポーネントはInternet Explorer(以下IE)に特

図2：Officeのコンポーネントを使ったWebページ

